

劇団チャリT企画 番外公演

キョーボ ですよ!

Chari-T Kikaku Kyobaw!



作・演出 / 檜原 拓 (chari-T)

上演台本

○登場人物

園田ミドリ（チューボーくらぶ新メンバー・主婦）

徳永コウスケ（チューボーくらぶ・主夫・脱原発）

雨宮シオリ（チューボーくらぶ・主婦・護憲）

桃山カリン（チューボーくらぶ・主婦・海外旅行好き）

木下ユウコ（チューボーくらぶ・中学教師）

刑事1

刑事2

第一場

警察署の取調室。

真ん中に机、その両サイドにイスが一脚ずつ。

刑事1と主婦・園田ミドリが出てくる。

刑事1 すみませんねえ。お忙しいところ。

園田 いえいえ……。

刑事1 緊張されてますか？

園田 ええ、まあ、なんか、こういう事情聴取っていうのは初めてなもので。

刑事1 そうですか。

園田 刑事ドラマみたいですねえ……。

刑事1 まあ、任意の聴取ですから、あまり堅くならずにリラックスして……。

園田 はあ……。

刑事1 どうぞ、おかけ下さい。

園田 あっ、失礼いたします。

園田、椅子に腰かける。

刑事1も向かいに腰かける。

刑事1 今日、お越し頂いたいたしたのはですね。

園田 はい。

刑事1 園田さんが入られているチューボーくらぶについてなんでしょうね。

園田 あっ、はい。

刑事1 それは、どういったことをするクラブなんですかね？

園田 ……ああー、まあ、お料理のサークルですけど。

刑事1 具体的にはどういった。

園田 ああー……まあ、みんなで集まって、お料理つくって、それ試食して、最後にみんなで採点したりとか……。

刑事1 採点？

園田 いや、あの、「星三つ！」とか。

刑事1 ああー……お料理以外では、何かありませんか？

園田 お料理以外？

刑事1 はい。料理をつくる、その本来の目的以外に、何か、別の……。

園田 ああー、まあ、皆さんとお茶したりとか、おしゃべしたり、たまにピクニックとか、あっ、この間は花見もやりましたけど。

刑事1 花見……。

園田 はい。

刑事1 それは、お弁当とお酒を持ってですか？

園田 ああ、まあ……。

刑事1 例えば、地図とか、双眼鏡とかは。

園田 いや、すぐ近くの公園なんで、地図なくても分かりますから。

刑事1 ああ、そうですか。

園田 はい。

刑事1 あと他には。

園田 えっ？

刑事1 料理や花見の他に、何かありませんかね。

園田 他ですか？

刑事1 はい。何でもいいですよ。些細なことでも。

園田 まあ、うちは最近越してきたばかりなんで、いろいろと分からないこと教えていただいたりとか、あと、子供のことで相談乗っていたりとか。皆さん、とても親切な方々なので、いろいろと助けられていますけど。

刑事1 ほほう……親切ねえ……。

園田 はい。こんなヨソ者の私に、ものすごく親身になって接して下さいます。

刑事1 何か、他のメンバーの方に、誘われたりとか、そうい

うことはないですかね？

園田 誘われる？

刑事1 はい。例えば、何かの集まりだとか。

園田 集まり？

刑事1 はい。

園田 それは、どんな？

刑事1 少しマジメな、社会問題とか。

園田 社会問題……。

刑事1 例えば、原発のこととか。教育とか、憲法とか、あるいは平和についてとか。

園田 ああー、まあ、中にはね、そういうのに関心お持ちの方もいらつしやるようなので、そういうチラシとかいただいたりすることはありますけど、でも、私はちよつとそういうのは疎いものですから……。

刑事1 はあ……。

園田 それが何か……というか、なぜ、私はここに呼ばれたんでしょうか。私、何かしましたか？ まったく、身に覚えがないんですけど。

刑事1 いやいや、園田さんが直接、というわけではないんですけどね。

園田 私ではない？

刑事1 ええ。

園田 っつことは……。

刑事1 ちょっと、今の段階では、ここだけの話にしておいて
いただきたいんですけど。

園田 はい。

刑事1 実はですねえ、園田さんのいらつしやるチューボーく
らぶの中にですね。

園田 はい。

刑事1 テロリストが潜んでいる可能性があるんです。

園田 テロリスト？

刑事1 それも一人ではなく、少なくとも二人以上。

園田 ええー……テロリストって……でも、そんな、皆さん、
普通の主婦の方ですし、あっ、一人だけ男性の方いらしゃい
ますけど、皆さん、そんな、テロリストだなんて……

刑事1 まあ、表向きは平穏な料理サークルを装ってますけど
ね、実際は、テロの実行を目的とした組織的犯罪集団である
可能性があるんです。

園田 まさか……。

刑事1 まあ、なかなか信じ難いことだとは思いますが、一

般市民の方からの通報がありましたね、今まさに捜査段階な
んですけど、この間にも、様々な裏付けとなる状況証拠が出
てきておりまして……。

園田 ええー……それ、本当ですか？

刑事1 ウソなんて言っつてどうするんですか。

園田 ……。

刑事1 このままだと、園田さんもその犯罪集団の一員、テロ
リストの仲間っつてことになっつてしまいませんかねえ……。

園田 えっ……そんな！ 私、テロリストなんかじゃありませ
ん！ 私は、ただの料理サークルだと思っつて、そう思っつて入
っただけですから……私は違います！

刑事1 まあ、それは今後の捜査次第で、徐々に明らかになっ
てくると思っつますが、さしあつたつて、園田さんこと、念のた
め、いろいろ調べさせてもらいまっつてね。

園田 えっ？

刑事1 その過程で、こんな通信記録が出てきまっつてねえ。

園田 えっ？

刑事1、通信記録の書類を園田に見せる。

園田 ！

刑事1 これ、このメールのやりとり、ご記憶にありますよね。

園田 な、なんで……なんで、こんな……。

刑事1 これ、旦那さんに見られたらマズイんじゃないですかねえ？

園田 なんでこんなもの！ プライバシーの侵害じゃないですか！

刑事1 いやいや……これは捜査の一環ですから。公益及び公の秩序を守るために適正に行われた合法的な通信傍受ですから、違法性は一切ありません。

園田 だからって……。

刑事1 何もこちらは、このメールをどうにかしようとか、そんなことは思ってませんよ。

園田 ホントですか？

刑事1 ええ、まあ、この犯罪集団の活動とは関係のない、園田さんのプライベートな問題ですからねえ。

園田 はあ……。

刑事1 ただ、その代わりに、ちょっとご協力いただきたいなと。

園田 協力？

刑事1 テロを未然に防ぐために、チューボーくらぶの内部の

様子を我々にご報告いただきたいなど。

園田 ええ……。

刑事1 あなたの力で、テロが防げるかもしれない。人の命が救えるかもしれないですよ。

園田 はあ……。

第二場

明かり変化。

園田の証言。

その間、刑事は捌ける。

園田 こうして私は、半ば強引に、警察の捜査に協力させられることになりました……あまり気乗りはしなかったんですけど、あのメールを旦那に見られたら……そう思ったら……。えっ？ 中身ですか？ メールの方？ それはちよつと……いやあの、犯罪とかそんなじゃないんですよ。誰だつて、そういう知られたくない秘密であるじゃないですか。とにかく、その時の私は、メールのことで頭がいっぱいで……。その日は、ちよつと例のチューボーくらぶの活動日で、

週一回、毎週土曜の昼に、近所にある地域センターの調理室で行われるんですけど……そこにメンバーが集まって来まして……。

続きをどうぞ、といった感じの手振りをして、園田は去る。

第三場

明かり変化。
地域センターの調理室。
真ん中にテーブル。その周りにイスが数脚。
料理サークル「チューボーくらぶ」の活動日。
メンバーの徳永コウスケが出てきて、エプロン姿でキッチンを拭いたりしている。
同じくメンバーの雨宮シオリがやって来る。

雨宮 あつ、徳永さん、お久しぶりじゃないですか。

徳永 ああ、雨宮さん。ご無沙汰します。

雨宮 あつ、そう言えば、ニューヨークでしたよね？ どうでした？

徳永 いやあ……実は私、海外初めてだったんでねえ。

雨宮 そうなんですか？

徳永 カミサンにくつついてた歩ってただけで……。

雨宮 へえ……でも、奥さん凄いですよね。それで徳永さんのこと養ってるわけだから。

徳永 まあ、その分、私がねえ、家のこと全部やりますからねえ。

雨宮 エライですよねえ。

徳永 いやいやいや……全然ですよ、しょっちゅう、怒れてますから、味が濃すぎるとか、コクが足りないとか。旨みがなにかねえ

雨宮 へえ……でも、こうやってお料理サークル通って、一生懸命努力されて、涙ぐましいですよねえ。

徳永 いやいやいや……まだまだ全然！

雨宮 うちの夫にも見せてやりたいですよ。ホント、料理とか、何もできないんですから。

メンバーの桃山カリンがやって来る。

桃山 こんにちは。

二人 あつ、桃山さん、こんにちは。

桃山 あら、徳永さん、ご無沙汰じゃないですか？

徳永 ええ、三週間ぶりですね

桃山 そつか、そつか、ニューヨーク！

徳永 ええ、そうですそうです。

桃山 どうでした？

徳永 ええ、もう、海外初めてだったんで。

桃山 あらそう、意外！ どの辺行かれたんですか？

徳永 （ニューヨークの有名な場所などを挙げる）

桃山 あら、そうなんですかあ！ 偶然！ 私もねえ、先月そ

こ行ったんですよ！

徳永 あつ、そうでしたかあ！

桃山 なーんだあ、一ヶ月遅れで行けば、現地で徳永さんにお

会いできたのに……。

徳永 ああ……そうですねえ

桃山 あつ、そうそう（カバンの中から箱を取り出し）……こ

れ、一昨日までパリに行ってましてね。○○○の○○○って

いうすごい有名なチョコレートなんで、よければ……。

徳永 あつ、ありがとうございます。

雨宮 いただきます。

徳永 あつ！ すみません、私、おみやげとか……うっかりし

てまして……。

桃山 いえいえいえ……そんな気になさらないで。

雨宮 まあ、お仕事で行かれたわけですからね。

徳永 まあ、私は仕事というかねえ、ただ単にくつついていっただけなんですけどね。

雨宮 でも、奥さんのお仕事に同行されたわけですから。

桃山 そうですよ。

雨宮 全然、気になさらないで。

徳永 はあ……。

桃山 まあでも、私も仕事と言えば、仕事でしたけどねえ。

徳永 ……。

桃山 でも、初めての海外で、不慣れでいらしたわけですよ。

いいんです、いいんです、お気持ちだけで。

徳永 はあ……。

園田がやって来る。

園田 あ、遅くなりました。

一同 あつ、園田さん、来た来た。

園田 すみません。

雨宮 待ってましたよ。

園田 すみません。ちょっと前の予定が伸びてしまいました

……。

桃山 大丈夫ですか？ なんだか、少しお顔の色がすぐれない
みたいですが……。

徳永 あつ、確かに。

園田 そうですか？

雨宮 お掛けになったらどうです？

園田 いや、大丈夫ですけど。

雨宮 まあまあ……。

園田 はあ……すみません。(イスに腰掛ける)

桃山 あら？ 今日これだけですか？ 木下さんは？

雨宮 あつ、そう言えば……。

徳永 まだ見てないですね。

雨宮 珍しいですねえ。

桃山 今日はビーフストロガノフだから、絶対来るって言って
たのに。

徳永 ああ、言ってみましたね、言ってみましたね。

雨宮 っていうか、木下さんですよ、今日の買い出し当番。

桃山 あつ、そうそう、食材！ 木下さん来ないと、作れない

わよ。ビーフストロガノフ。

徳永 なんか、あつたんですかねえ……。

桃山 連絡とかってないんですか？

雨宮 いやー特には……

徳永 ないですねえ

一同、各々の携帯などを確認する。

徳永 ダメです……圏外です。電話。

桃山 圏外？

雨宮 まあ、もう少し待ってみますか。

一同 そうですね。

桃山 あつ、そうそう(カバンの中から箱を取り出し)……こ
れ、一昨日までバリに行っていましたね。○○○の○○○って
いうすごい有名なチョコレートなんで、よければ……。

園田 あつ、ありがとうございます。

雨宮 あつ、そうそう(勉強会のビラを取りだし、みんなに手
渡しながら)……これ。今週末なんですけどね、憲法学習会。

徳永 ああ。

雨宮 変えられてしまった憲法、変えられてしまった九条を取
り戻す！ そのためにね、ぜひ参加していただきたいと思っ
ます。

徳永 ええ、ぜひ行かせていただきますよ。

雨宮 園田さんも、来られるでしょ。

園田 えっ？ 私ですか？

雨宮 参加したいって、言ってましたよね？

園田 ああ……まあ、時間とれましたら……。

雨宮 ぜひ！ お願ひします。ホント、大事な学習会ですから。

徳永 あつ、そうそう（集会のビラを取りだし、みんなに手渡しながら）……これは来週なんですけどね、脱原発の集いがあるんで、これもぜひお願ひします。

桃山 あつ、そうそう（カバンの中からチラシを取り出し）

……これ、私も今月末に〇〇〇〇の発表会がありまして、お時間あればぜひ！

雨宮 あつ、そうそう（「9」の形をしたキーホルダーを取り

出し）……これ、九条ホルダー。手作りですよ、手作り！

これ、皆さんに差し上げますのでね、ぜひ、カバンとかにつけていただいて、憲法取り戻すぞ、九条と戻すぞって、意思表示していただいて。

徳永 あつ、そうそう（ステッカーを取りだし、みんなに手渡しながら）……私もね、これ、脱原発のステッカー。作ったんで、よろしければ……。再稼働反対！ってね。

桃山 あつ、そうそう（カバンの中からビラを取り出し）……これもついでに、来月なんですけど、うちの弟がやってる劇

団の舞台がありまして、お時間あればぜひ！

園田 はあ……。

桃山 それにしても、木下さん来られませんかえ。

一同 ああ……。

桃山 食材……。

一同 ああ……。

雨宮 何かあったのかしら。

一同 ああ……。

徳永 心配ですねえ。

雨宮 木下さん家って、この近くでしたよね？

徳永 ええ。

雨宮 私、ちよつと行ってきましたね。

徳永 場所分かります？

雨宮 あれ？ どっちでしたっけ。

徳永 あつ、じゃあ僕行きますよ。

雨宮 えっ？ ああ、いいです、いいです、私行きますから。

徳永 いいですいいです、僕行きます。

雨宮 じゃあ、私も行きます。

雨宮と徳永、去る。

桃山 大丈夫ですか？ 体調。

園田 ああ、もう大丈夫です。

桃山 あまりご無理なさらないようにね。

園田 はあ……なんだかすみません。

桃山 園田さんって、行かれるんですか？ こういうの。

園田 えっ？

桃山 こういう学習会とか。

園田 いや、私は……こういうのにはちよつと疎いもので……。

桃山 どう思われます？ こういうの。

園田 えっ？ どうって……。

桃山 一応、お料理サークルじゃないですか、ここ。

園田 ああーまあ……はい。

桃山 あんまりねえ、こういう政治的なこと、持ち込むのはど

うなのかなあって……。

園田 はあ……。

桃山 こういうのついていけなくて、やめられた人もいますし

ねえ。

園田 あっ、そうなんですか？

桃山 だって、こんな関係ないピラとか渡されて、どんなサー

クル？って思われるじゃないですか。

園田 はあ……。

桃山 ここできて、もう十年になりますけど、最初はこういう

んじゃないかなって思ってたんですけどねえ。

園田 えっ、そうなんですか？

桃山 だんだんと、こういう系のお仲間が増えていって……こ

んなこと言うのも難ですけど、このままだと、こういう人た

ちに乗っ取られてしまうんじゃないかって……。

園田 ああ……。

桃山 私もね、実は何度かやめようと思ったことあったんです

けどね。

園田 えっ？ そうなんですか？

桃山 でも、それでやめたら、ますますあの人たち勢いづいて、

勢力広げて、日本中がああいう、反日って言うんですか？

そういう人たちが溢れかえってしまって、しまいには日本を

滅ぼすんじゃないのかって、そう思うと、ここでやめたら

益々あの人たちの思う壺だって……。

園田 はあ……。

桃山 それでなんとか、私もフラメンコとか、娘の劇とか、そ

ういうチラシ配ったりして、微力ながらも必死に抵抗してる

って、こういうわけなんですけどね。

園田 あつ、抵抗だったんですね。

桃山 なんで私が、あんな貧乏劇団のチラシ恥ずかしげもなく配ってるか、分かってもらえます？

園田 はあ……。

桃山 だから、園田さんも、絶対にやめないで下さいね。私と一緒に、このチューボーくらぶを健全なお料理サークルに戻すために、正常化するために、あの方々から日本を取り戻すために、一緒に頑張りましょう！

園田 はあ……。

徳永と雨宮が戻ってくる。

雨宮 戻りましたー。

徳永 いやー、いらっしやらなかったですねえ。木下さん。

桃山 ええー……。

雨宮 お母さまがいらしたんですけどねえ。一時間前に出られたって。

桃山 一時間前……。

雨宮 どうされたのかしら……。

徳永 心配ですねえ……。

桃山 まさか、拉致されたりとか、北朝鮮に！

一同 ええっ？

桃山 あるいは暗殺されたりとか。北朝鮮に！

一同 暗殺？

桃山 もしくは、北朝鮮の大陸間弾道ミサイルにピンポイント爆撃されたりとか。

一同 「ピンポイント過ぎるでしょー」「等のツツコミ」

桃山 やだあ、どうしましょう……。

第四場

警察署の取調室。

刑事1と、机を挟んだ向かいにチューボーくらぶのメンバー・木下ユウコが座っている。

机の上には、食材の入ったエコバッグと包丁。

刑事1 (包丁をさして) これは何だ。

木下 包丁ですけど……。

刑事1 だなあ。これで何するつもりだったんだ。

木下 何って……料理ですけど。

刑事1 料理？

木下 はい。

刑事1 (机を叩き) しらばつくれんな!

木下 しらばつくれてなんかいません。お料理のサークルに向かうところだったんです。それで、家から包丁持参して、食材も買って……何もやましいことなんかありません。なのに、なんで銃刀法違反なんですか。私、何も悪いことなんかしてません!

刑事1 すつとぼけやがって……全部分かってんだからな!

木下 私が何をしたっていうんです。

刑事1 何を「した」じゃないんだよ。

木下 はっ?

刑事1 これから何を「する」かが問題なんだ!

木下 ですから、料理をするんですって。

刑事1 違う!

木下 違います。私は料理するために、そのサークルに向かうために、この包丁を家から持ちだしたんです。

刑事1 そうじゃないだろ!

木下 そうなんですって!

刑事1 往生際が悪いなあ……素直に認めたらどうなんだ?

木下 何をですか?

刑事1 あんたは、その包丁で、仲間と共謀してテロを実行しようとしたんだ!

木下 はあ?

刑事1 素直に認めろ!

木下 なんて、なんで私が……。

刑事1 自分の胸に手当ててよく思い返してみな。

木下 全く身に覚えがありません。

刑事1 しらばつくれんな!! ちゃんと調べはついてるんだ!

木下 私は、ただ、料理をするために、そのために包丁を持ち歩いていただけです。

刑事1 ふん! 何の料理をするつもりだったんだろうねえ。

これ何を切り刻むつもりだったんだ!

木下 ですから、この食材です。

刑事1 (エコバッグの中から食材を取りだし) これは何だ。

木下 牛肉です。

刑事1 これは?

木下 玉ねぎです。

刑事1 これは?

木下 赤ワインです。

刑事1 これは？

木下 マツシユルームです。

刑事1 これで何しようとしたんだ！？

木下 ビーフストロガノフをつくろうとしました。

刑事1 ……ふーん……じゃあ、百歩譲って、料理サークルに行こうとしたことはそうなのかもしれない。だが、そこからが問題だ。

木下 はい？

刑事1 その料理サークル、チューボーくらぶって言うらしいなあ。

木下 はい。

刑事1 それがどういう団体か、ちゃんと調べはついてんだぞ！

木下 えっ？ どういう団体なんですか？

刑事1 ふん！ すっとぼけやがって！

木下 すっとぼけるって……じゃあ、どんなサークルだっていうんですか？

刑事1 お前らは、ある特定の政治思想をもって日本社会を攪乱し、治安を乱そうとする組織的犯罪行為集団なんだ、そう
だろ！

木下 違います。

刑事1 違わない！ お前らは平穏な市民生活を脅かす犯罪者集団だ！ お前はテロリストだ！ 素直に認めろ！

木下 そんな……どうしたら、そんな普通のお料理サークルが、犯罪集団になるんです？ テロリストになるんです？

刑事1 告発があつたんだよ！

木下 告発？

刑事1 一般市民からの。料理サークルを隠れ蓑として、テロを計画してる団体があるってな。

木下 誤解です。

刑事1 じゃあ、これは何だ。

木下 ですから、料理をするための包丁です。

刑事1 違う！

木下 本当にそうなんですって、信じて下さい。

刑事1 いつまでもそうやってシラ切つてられると思うなよ。

木下 ……。

刑事1 絶対に、必ず、お前らの化けの皮を剥がしてやる！

ムシヨに送り込んでやるからな！ ハハハッ……。

木下 ……。

第五場

徳永の証言。
その間、木下と刑事は捌ける。

徳永 こうやって木下さんが警察の取り調べを受けていることなどつゆ知らず、私たちチューボーくらぶのメンバーは、彼女の行方についてあれこれ勝手な詮索をしていました。

チューボーくらぶのメンバーが出てくる。

第六場

チューボーくらぶ。

雨宮 ホント、心配ですねえ。木下さん。

徳永 捜索願いつか出した方がいいですかねえ、警察に。

園田 警察……。

一同 ああ……。

桃山 まあでも、そういうことはご家族の方がねえ……。

一同 ああ……。

桃山 木下さんのお母さまは何て言っただけですか？

雨宮 もうちよつと待ってみますって……。

桃山 そうなの？

徳永 なんか、他に手がかりないですかねえ。

雨宮 手がかり……。

徳永 例えば、急な予定を思い出して……仕事関係とか。それで、お料理どころじゃなくなっちゃったとか。

桃山 でもそれならそれで、連絡くらいあっても良さそうなものじゃないですか？

徳永 連絡するのを忘れるくらい、ものすごいトラブルとか、大至急の案件とか。

桃山 木下さんって、お仕事何されてるんですしたっけ？

雨宮 中学の先生です。

桃山 ああー。

雨宮 そのモリカケ学園中等部の。

桃山 そうでした、そうでした。

徳永 それなら、生徒に何かあったんじゃないですかね。

一同 ああー！

徳永 例えば、怪我しちゃったりとか。それで病院にいるとか。

一同 ああー！

雨宮 それで圏外！

徳永 あるいは、生徒が問題起こして、警察沙汰になってしま
つてるとかね。

園田 警察！？

一同 ああー！

雨宮 熱血教師ですからねえ、木下さん。

桃山 だとしたら、今日はもう無理じゃないですか？ 材料な
いですし。

一同 ああー……。

徳永 今から買い出し行くとか……。

雨宮 どうします？ やります？ 今日。

桃山 だけど、時間が……。

一同 ああー……。

徳永を残し、一同、去る。

徳永 というわけで、結局その日はそのままお流れとなり、木
下さんが来られなかったのは、生徒の怪我か問題行動に違い
ないと、私たちはそう勝手に結論づけてそのまま解散したわ
けなんです。しかし、夜になっても木下さんは家に帰らず、

しかも連絡もなく、そんなことはこれまで一度もなかったそ
うで、これは事件か何かに巻き込まれたんではないかと、
そう思われた彼女のお母さんが警察に問い合わせたところ、
なんと木下さんは警察にいたということが分かりました。生
徒の問題行動などではありません。木下さん自身の問題行
動？ 何があつたか分かりませんが、木下さんは、逮捕され
てしまったらしいんです。

再び、一同、戻ってくる。

桃山 逮捕って、どういうこと？

雨宮 何で捕まっちゃつたの？ 木下さん。

徳永 ちょっとまだ、詳しいこと分からないらしいんですけど
ね。

雨宮 何があつたのから……。

桃山 万引きとか？

一同 万引き？

桃山 料理の食材よ。昨日の。

一同 ええ……

徳永 まさか……木下さん、そんなことしませんよ。

雨宮 そうですよ、そんな……お金ないわけじゃないでしょう

し。第一、学校の先生ですよ。

桃山 でもほら、出来心っていうのがあるじゃないですか。

一同 ええー……。

桃山 それにほら、彼女、すごいマジメで繊細じゃないですか。

神経質で。乙女座A型だし。

徳永 えっ、乙女座A型って、マジメで繊細なんですか？

桃山 あと神経質ね。

雨宮 そうなんですか？

徳永 うちのかみさんも乙女座A型なんですけど、すごい大

雑把な性格してますけどね。

桃山 まあ、例えばですよ、例えば。

一同 例えば？

桃山 土曜なのに、前の日に銀行から現金下ろし忘れて、それ

で、食材のお金用意できなくて……。

雨宮 だけど、土曜だって、ATMやってるじゃないですか。

桃山 手数料とられるでしょ。木下さん、手数料なんて1円た

りとも払わないような、そんな性格の人だから。

徳永 でも、現金なくても、クレジットカードとかね。

雨宮 ああーそうですよ。そうですよ。

桃山 あの人は、クレジットカードなんて絶対持たないタイプ

ですよ。

雨宮 そうなんですか？

徳永 だったらお母さんに借りるとかねえ。

雨宮 ああー……。

桃山 だから、人でもクレジットカードでも、お金を借りるっていう

こと自体が、許せないような、そんな人なのよ。

徳永 だけど、そんなキツチリした人が、万引きなんてしま

す？

桃山 だから出来心なんですって……。

一同 んんん？

雨宮 もしかすると……。

一同 ん？

雨宮 木下さん、学校でいろいろ運動とかされてらっしゃるか

ら、その関係とか。

桃山 運動？

雨宮 はい。

桃山 部活ですか？

雨宮 いえいえ……あのー、憲法についてとか。あと、教育勅

語の問題とか

桃山 ああー。

徳永 あつ、義務化反対の。

雨宮 そうそうそう……。

桃山 そういうの運動ね……。

雨宮 そうですよ。

桃山 まあ、いつもビラとか配ってらっしゃいますものねえ。

雨宮 ええ。

徳永 えっ？ それで捕まっちゃったってことですか？

雨宮 本当にそうか分からないですけど……でも、木下さんと

か、結構、熱心に反対運動されてるみたいで、今度の入学式

も絶対に阻止するって……。

桃山 えっ？ 入学式を阻止するんですか？

雨宮 いやいや……そうじゃなくて、入学式における教育勅語

の誦読、それを阻止するんです。

桃山 えっ？ 何ですか？ それ。

徳永 あれですよね？ あの、入学式で在校生が新入生に教育

勅語を誦読して聞かせるって、そういうヤツですよ。

雨宮 そうですそうです。

徳永 今年からそうなったんですよ。

桃山 ああー、見ました見ました。何年前かに「ひるおび」で

やってみましたよ。「安倍首相ガンバレ！ 安倍首相ガンバ

レ！」って、園児たちが一生懸命声張り上げて、可愛らしい……。

雨宮 そうじゃなくて……。

桃山 えっ？ 違うんですか？

徳永 ほら、そのあと園児たちが誦読してたヤツですよ。声揃

えて。

桃山 ああー……。

園田 あつ、私、それ言えます。

一同 えっ？

園田 朕惟うに（ちんおもうに）、我が皇祖皇宗（わがこうそ

こうそう）、国を肇むること宏遠に（くにをはじむることこ

うえんに）、徳を樹つること深厚なり（とくをたつることし

んこうなり）。我が臣民克く忠に（わがしんみんよくちゆう

に）、克く孝に（よくこうに）、億兆心を一にして（おくちよ

うこころをいつにして）、世々厥の美を濟せるは（よよその

びをなせるは）、此れ我が国体の精華にして（これわがこく

たいのせいかにして）、教育の淵源亦実（きょういくのえんげん

ままだじつに）ここにそんず。

一同 おおー……すごい……。

雨宮 えっ？ なんで園田さん言えるんですか？

園田 いやあの、息子が幼稚園で教わってまして、家で練習してるの聞いてたら、自然に覚えてしまってる……。

桃山 いやあ、感心だわ。こんな難しいの。

園田 いえいえ……。

桃山 でも意味がさっぱり分からない。

園田 私もあまりよく分からないんですけど、まあ、親に孝行しろとか、兄弟夫婦は仲良くしろとか、そういう道徳的なことみたいですよ。

桃山 ああ、そういうことね。良いこと言ってるじゃない！

雨宮 とんでもないですよ！

桃山 はい？

雨宮 そういうもつともらしいこと並べちゃいますけどね、一番言いたいのは、天皇のために命をかけて国を守れて、そういうことなんですよ。

園田 えっ？ そうなんですか？

雨宮 そうですよ！

園田 知らなかった……。

雨宮 前の憲法だったら、絶対そんなの認められなかったんです。憲法変えられたばかりに……。

桃山 それ、何が問題なんですか？

雨宮 はい？

桃山 だって、国に何かあったら、それ守るために命をかけるのは日本人として当然じゃないですか？ねえ園田さん？

園田 はあ……。

雨宮 そういう誤った教育で、戦前の日本は大きな犠牲を払ったんじゃないですか？

桃山 ですが、だからといって、そういうの全否定することはないじゃないですか？ 親孝行、兄弟仲良く、良いことじゃないですか。

雨宮 それなら教育勅語じゃなくたって良いじゃないですか！

桃山 いやいや、そういう戦前からの由緒ある伝統あるものだからこそ、いいんじゃないですか。

雨宮 いやいや……由緒も伝統もありませんよ。

桃山 はい？

雨宮 明治から昭和までのたかだか数十年ですよ。

桃山 たかだかつてことはないでしょ、たかだかつて。

雨宮 そもそもねえ、教育勅語っていうのは、天皇から臣民への命令みたいなもんですよ。私たちは臣民なんかじゃありません。国民です。主権者です。

桃山 そんなことは分かってますよ。

徳永 まあまあまあ……その教育勅語の話はさておいて、木下さんですよ、木下さん。

雨宮 そうですよ、そうですよ！

桃山 そうそう！ 一体どうしちゃたのかしらねえ。

雨宮 ちょっとあたし、モリカケ中に行つて来ます。何か手がかりとかあるかもしれないんで。

一同 ああ……行つてらっしゃい。

雨宮、去る。

桃山 ああやって上からモノ言われるから、つつい言い返し
たくなっちゃいますよねえ。

徳永・園田 はあ……。

桃山 はあ……気をつけないと。お料理のサークルですからね
……。)

徳永・園田 はあ……。

桃山 まあだけど、阻止するとか、物騒ですよねえ……。

徳永・園田 ああ……。

桃山 やっぱりそういうので捕まったんですかねえ、木下さん。

徳永 ああ……だけど、入学式は明後日ですからねえ。その
ことで捕まるっていうのもねえ……。

徳永・園田 ああ……。

刑事2が登場。

刑事2 すみませーん。

一同 はい。

刑事2 チューボーくらぶの方でいらつしやいますかね？

一同 はい。

刑事2 (警察手帳を見せて) 私、こういうものですが……。

桃山 えっ？ 警察の方？

刑事2 はい。

桃山 あつ、もしかして、木下さんのことですか？

刑事2 ああ……まあ、その関連で……。

桃山 なんで捕まつてしまったんですか？

徳永 何をされたんですか？

桃山 万引きとかですか？

刑事2 万引き？

桃山 違うんですか？

刑事2 まあ捜査に差し障りがありますので……それより、こ

ちらに雨宮シオリさんはいらつしやいますか？

桃山 雨宮さん？

刑事2 はい。

桃山 雨宮さんなら、さつき出られましたけど。

刑事2 えっ? どちらに。

桃山 あのー……。

徳永 あつ、あのー、雨宮さんにどのような。

刑事2 ええ、まあ、ちよつと木下さんの件で、お伺いしたい

ことがありまして……どちらに行かれました?

徳永 いや……どこ行つたんですかねえ。

桃山 あつ、雨宮さんなら、モリカケ学園に行かれましたよ。

徳永・園田 えっ……

刑事2 モリカケ学園……。

桃山 はい。中等部に。

刑事2 ありがとうございます。

刑事2、去る。

徳永 えっ? なんで、言つちやつたんですか?

桃山 えっ? 何を?

徳永 いや、雨宮さんの……。

桃山 あれ? マズかった?

徳永 いや、マズかったっていうか……。

園田 もしかしたら、雨宮さんも警察に……。

桃山 えっ? そういうこと?

徳永 いや、分かんないです、分かんないです。

桃山 えっ? そういうこと? えっ? 雨宮さんなんかした

の? 万引き?

徳永 ちよつと僕、見てきます。

徳永、去る。

桃山 ホント、何があつたのかしら……。

園田 あのー……。

桃山 はい?

園田 私、ちよつと、ある人から聞いたんですけど……。

桃山 何を?

園田 ……あつ、でも、やっぱりいいです。

桃山 えっ? 何? 何?

園田 いや、いいです、いいです。

桃山 えっ? 何? ちよつと気になる。

園田 やっぱり、いいです。

桃山 えっ? ちよつと何ですか? 話して下さいよ。

園田 ……誰にも言わないですか?

桃山 ええ。もちろんですよ。

園田 ホント、ここだけの話にして下さいね。

桃山 はい。

園田 この、チューボーくらぶの中に……。

桃山 はい。

園田 テロリストが潜んでいるらしいんです。

桃山 テロリスト!?

園田 はい。

桃山 テロリストって……えっ? テロリスト!?

園田 はい。

桃山 はあ?

園田 どうやら、テロリストがここを隠れ蓑として、それで密

かにテロの実行を計画してるって……。

桃山 ええー……それ誰よ、テロリストって。

園田 いや、それは分からないんですけど……でも、木下さん
逮捕されたのって、もしかすると、そういう関係なのかなっ
て……。

桃山 えっ? じゃあ、木下さん? えっ? 木下さんテロリ
スト?

園田 いやいや、まだそれはハッキリとは分からないんですけ

ど……だけど、木下さん、いろいろと運動とか、そういうの
されているみたいだし……。

桃山 ああー、さっきの入学式阻止とかね。

園田 そそそ、そうです、そうです! 教育勅語の。

桃山 だけど、そんなこと言ったら、雨宮さんだって……。

園田 ああー……。

桃山 九条九条憲法憲法、さっきだって、あんなムキになって
たじゃない。

園田 そうなるとやっぱり、さっきの警察も、雨宮さんのこと
……。

桃山 あっ……なるほど……。

園田 そのテロリストっていうのは、どうやら一人じゃなくて、
何人もいるらしくて……。

桃山 何人も?

園田 はい。

桃山 えっ? ってことは……木下さんと雨宮さんと……徳永
さんも?

園田 ええー……。

徳永、戻ってくる。

徳永 ダメですねえ。

園田・桃山 ！

徳永 どうか、されました？

桃山 いえいえ……あつ、どうでした、雨宮さん。

徳永 それが、入れなくて、校内に。

桃山 そうなんですか？

徳永 IDカードが必要みたいで。

桃山 ああ……。.

徳永 最近の学校はすごいですねえ。セキュリティが。

桃山 まあねえ、テロとかあったら困りますものねえ。

徳永 まあ、そうですね。

桃山 このあたりにもいるらしいですからねえ、テロリスト。

園田 ！

徳永 えっ？ テロリスト？

桃山 そうらしいですよ、気をつけた方がいいですよ。

徳永 えっ？ テロリストがいるんですか？

園田 あつ、あの、雨宮さん、大丈夫ですかねえ。

桃山 そうよそうよ、雨宮さん！ ホント、心配ですよねえ

……。

徳永 事情聞かれるってことは、雨宮さんも何か関係あるんですかね？ 木下さんの件と。

桃山 実は、あたしたちもそれ気になってたんですよ。

徳永 あつ、そうですね。

桃山 ねえ、園田さん。

園田 えっ！

桃山 もしかすると、雨宮さんも、木下さんの件で、逮捕され

るんじゃないのかって……。

徳永 やっぱりそうですね？

桃山 っていうのは、ちよつと小耳に挟んだんですけどね。

徳永 あつ、はい。

園田の証言。

園田 桃山さんは、私が話した内容をほぼそっくりそのまま徳永さんに伝えました。ここだけの話って言ったのに！

元の会話に戻る。

徳永 テロリスト？

桃山 はい。

徳永 ここに？

桃山 ホント、ここだけの話にしておいて下さいよ。

徳永 ええ、もちろんです。

徳永と桃山は去る。
入れ替わりで、木下と刑事が出て来る。

園田 一方、その頃、警察署では木下さんの取り調べが続いて
いました。それは丸二日間、長時間に及ぶ大変過酷なものだ
ったようです。

園田、去る。

第七場

警察の取り調べ室。

刑事1と木下。

刑事1 いい加減、認めたらどうなんだ？

木下 私はテロリストなんかじゃありません。

刑事1 じゃあ、この包丁は何なんだ！

木下 ですから……もう何編も言ってるじゃないですか。この
包丁で私が一体何をしようとしたって言うんです？

刑事1 それはこっちが聞いているんだ！

木下 本当に身に覚えがないんです。私が一体何をしようとし
たっていうんです。お願いですから、分かるように詳しく説
明して下さい！

刑事1 ……つたく、しょうがねえなあ……出血大サービスだ
からな！

木下 お願いします。

刑事1 あんた、中学の先生なんだろう。

木下 はい。

刑事1 モリカケ学園中等部、家庭科。吹奏楽部副顧問。

木下 はい。

刑事1 マジメで熱心な先生だつて、なかなかの評判らしいじ
やないか。表向きはな！

木下 ……。

刑事1 その裏で、どんなことしてるか……あんたのこと、い
ろいろ細かく調べさしてもらったよ。

木下 えっ？

刑事1 あんた、教育勅語に反対してるそうじゃないか。

木下 ……。

刑事1 どうなんだ！

木下 ええ、まあ。

刑事1 なんて反対なんだ？

木下 天皇のため、国のために命を賭けて戦えだなんて、そんなこと子供たちに教られません！ 主権在民に反します。憲法違反です。

刑事1 憲法違反？

木下 はい。

刑事1 あんた……新しい憲法の前文には、こう書いてあるだろ。(手帳を広げ)「日本国民は国と郷土を誇りと気概をもつて守り」……云々(でんでん)って！

木下 でんでん？ それ「うんぬん」じゃないですか？

刑事1 バカヤロー！ 「云々」と書いて、「でんでん」とも読む、そう閣議決定されただろ！ 辞書にも載ってる！

木下 どの辞書ですか……。

刑事1 教師のクセにそんなことも分からないのか！

木下 そんなバカな……。

刑事1 まあ、そんなことはどうだっていいことだ。あんたらがどう憲法を解釈したって、公益及び公の秩序を害さない限り、それは自由ってものだ。ところが、あんたはその入学式における教育勅語の誦誦を暴力的に阻止しようとした。そし

てその目的で、同じ考えをもつ教員仲間、それからチューボーくらぶのメンバーらと共謀して、不当に職員室を占拠し、かつ校長・教頭・事務職員を監禁しようとした。この包丁は、その実行のために準備されたものだろ！

木下 そんな事実はありません！

刑事1 あるんだ！

木下 ありません！

刑事1 ある！

木下 ありません！

刑事1 なぜ、ないと言い切れる？

木下 なぜって……確かに、私は教育勅語の誦誦をやめさせよう、いろいろな活動しましたよ。ビラを配ったり、校長や教頭を説得したり。だけど、こんな包丁を使って脅したり傷つけたり……そんなこと考えたことなんてありません。

刑事1 いや、ある。

木下 ありません？

刑事1 あんたは、そういう風に考えたんだよ。

木下 考えてません！

刑事1 考えたんだ！

木下 なぜ、私の考えたことが分かるんです！ 心が分かるん

ですか？ 内面が分かるんです！

刑事1 証拠があるんだよ！

木下 証拠？ 私の心の証拠ですか？ それは私にしか分らないじゃないですか！

刑事1 あんたの心を表した、客観的な状況証拠だよ。

木下 状況証拠？

刑事1 メールのやりとり、SNSの書き込み、それから電話、ちゃんと証拠は揃ってるんだ！

木下 ええっ？ まさか、私のメールとか、電話とか、そういうの調べたんですか？

刑事1 ああ、全部調べさしてもらったよ。

木下 なんで……なんで……なんでそんなことするんですか？
あなたに何の権限があるんです！

刑事1 告発があつたんだよ。

木下 告発？

刑事1 しかも、内部からの。

木下 内部？

第八場

チューボーくらぶ。
桃山と徳永と園田。

徳永 じゃあ、木下さんと雨宮さんが、テロリスト？

桃山 っつて、園田さんが言うんですけど……。

園田 えっ？ 私ですか？

桃山 さっきそう言ったじゃないですか。

園田 いや……。

桃山 私は、こう一緒にお料理つくってるお仲間ですから、そういう人たちのこと、テロリストだなんて、ねえ……。

園田 私もそんな、決めつけたりしたわけじゃないんですよ。

桃山 だけども、皆さんよく配ってらっしゃるでしょ。ピラ

とか、あと、なんか阻止するとか。

徳永 ああ……。

桃山 そうというのが、ねえ、疑われたりするんじゃないかって……。

徳永 えっ？ やっぱそれで捕まったってことですか？

桃山 そういうことなのよね？ 園田さん。

園田 いや……それはまだ分かりませんけど……。

桃山 でもどうやら、そういうんで、うちのサークルがテロ集
団だつて疑われてるみたいで……。

徳永 ヒドイですねえ。

桃山 ええ、ヒドイですよ。

徳永 そんなことされたら、市民運動とか、そういうの何もで
きないじゃないですか。

桃山 そうですよねえ……。

徳永 (脱原発のステッカー取りだして) こういうの配ったら
テロリストってことでもんね?

桃山 あっ! もしかすると、徳永さんも、それで警察に……。

徳永 えっ? 僕も捕まるってことですか?

園田 ええっ!

徳永 僕もテロリストですか?

桃山 そういうこと? 園田さん。

園田 いやあ……。

桃山 そういうことなんでしょ?

園田 まあ、そういうこともあり得るかなって……。

徳永 ええっ!?

桃山 ですからねえ、ちよつと私、思うんですけどねえ、あん
まり、こういうピラとか配ったりすると、なんだか、いらぬ

誤解を招くんじゃないかなって……一応、お料理サークルで
すからねえ、ここ。ねえ、園田さん。

園田 ああ、まあ……。

徳永 だけど、もし、本当にそういう理由だけで木下さん捕ま
ったんだとしたら、これ冤罪ですよ! 冤罪!

園田 冤罪!?

桃山 ああーそうですね、そうですね。

徳永 雨宮さんだって、捕まるかもしれないよ。

園田 ああっ!

桃山 ああーまあ、テロリストはねえ……。

雨宮が戻ってくる。

雨宮 戻りました。

一同 あっ、雨宮さん!

雨宮 ダメでした。中入れませんでした。

徳永 良かった、無事で。

雨宮 えっ?

徳永 さっき警察の方がいらして。

雨宮 警察?

桃山 このあたりにテロリストが潜んでいるらしいって。

徳永・園田 えっ？

雨宮 テロリスト？

桃山 はい。

雨宮 ああ、そう言えば、モリカケ学園の前に警察の車、いつ

ぱい止まってて……。

一同 ええー……。

桃山 モリカケ学園にテロリストがいるってことかしら？

雨宮 ええー、そうなんですか？

徳永 いやあのー、その警察の方なんですけどね。

雨宮 はい。

徳永 雨宮さんのこと、捜してまして……。

雨宮 えっ？ あたし？

徳永 はい。

桃山 でも警察の方、テロリスト捜してるんですよね？

雨宮 えっ？ それって……。

徳永の証言。

徳永 まったく！ 桃山さんは余計なことしか言いません。話
がこじれる一方でしたが、私はなんとか、今の状況を雨宮さ
んに伝えました。

元に戻る。

雨宮 えっ？ 私が？

徳永 その可能性があるってことです。

雨宮 そんな……私、捕まるようなことなんか何もしません

よ。

徳永 ですよええ。

雨宮 ただ、ちよっと会議に参加したり、プラカードつくるの

手伝ったり、そういうのしただけですから。

徳永 なるほど。

桃山 それならねえ、逃げたり隠れたりしない方がいいですよ

ね？ 逆に怪しまれますからねえ……。

一同 ああー……。

桃山 私たちも、犯人隠匿罪で捕まるかもしれませんしねえ。

雨宮・園田 犯人って……。

徳永 ですけど、木下さんみたいに逮捕されたりしませんかね

え。

桃山 だから逮捕される前に、さっきの刑事さん呼んで、ちゃ

んと説明した方がいいんじゃないですか？

一同 ああー……。

刑事がやって来る。

刑事 じゃあ説明していただきましょうか。

一同 あつ……。

桃山 先ほどの……どうもご苦労様です。

刑事 雨宮シオリさんですね。

雨宮 はい。

刑事 暑までご同行願います。

雨宮 えっ？ 私が何をしたって言うんです！

刑事 詳しくは暑でうかがいますから。(腕を引っぱって)行
きましよう。

雨宮 (振りほどいて) ちよつと待ってください。私は何もし
てません。

徳永 そうですよ、何かの誤解です！

刑事 誤解かどうか、それはあとでじっくりうかがいますよ。

雨宮 ちよつと待ってください。

刑事 いいから来て下さいよ！

雨宮 離して下さい！

刑事 来るんだって！

雨宮 離して下さい！

刑事 来いって！

雨宮 離して！

刑事 来いよ！

雨宮 やめて！

M 「世情」(中島みゆき)
スローモーションになる。

「3年B組金八先生」第2シリーズ第24話・生徒逮
捕シーンの手垢にまみれたパロディ。

逃げる雨宮。

それを捕らえようとする刑事。

揉み合っている内に、刑事、その場にわざと倒れる。
いわゆる「転び公妨」。

刑事 イッテえー！

雨宮 だ、大丈夫ですか？

刑事 お前、今突き飛ばしただろ！

一同 えっ？

刑事 公務執行妨害だよ！公務執行妨害！

雨宮 そ、そんな！

徳永 あんた、わざと倒れたじゃないですか！

刑事 午後三時五十五分、公務執行妨害で逮捕する！

雨宮 はい？

刑事 ほら来い！

雨宮 やめて！ 離して！

刑事、雨宮を連行していく。
それを止めようと、徳永は追いかけていく。

第九場

園田の証言。

園田 こうして、雨宮さんは逮捕されてしまいました。公安警察お得意の転び公妨という、わざと転んで公務執行妨害で逮捕するというそういうやつです。ちなみに、それを止めに入った徳永さんも同じく公務執行妨害で逮捕されてしまいました。

ただのお料理サークルなのに、三人も逮捕者が出てしまいました。残されたのは私と桃山さんと、何人かの幽霊メンバ―。ほぼ桃山さんとマンツーマン。うまくやっていけるのだろうか、私はわりとそっちの方に不安を感じていました。

桃山は去る。

園田 そうそう、肝心の木下さんですが、最初の拘留期限が迫る中、取り調べは重大な局面を迎えていました。

入れ替わりで木下と刑事。
園田、去る。

第十場

警察署の取調室。
刑事1と木下。

木下 内部の告発って、誰ですか、そんな告発……デタラメです！

刑事1 デタラメかどうか、それは調べなきゃ分からないだろ！ だから調べたんだよ！

木下 調べて、それで何か出てきたんですか？ 私がテロリストであるとかそんな証拠が出てきたんですか？

刑事1 そういう断片情報を積み重ねていけば、あなたがそういう組織的犯罪行為を仲間と共謀したっていうことは明らかなんだ！

木下 そんな強引な！ 私は犯罪者じゃありません。普通の市民です！ 一般人です！

刑事1 はあ？ 一般人かどうか判断するのは、あんたじゃない。こつちなんだよ！

木下 一般人は対象にならないって、そう言ってたじゃないですか……。

刑事1 あんたは一般人じゃない！ 一般人じゃないんだ！

木下 一般人です！

刑事1 一般人じゃない！

木下 一般人です！

刑事1 往生際が悪いなあ……もし今、この場で共謀の罪を認めれば、自首したということにしてやってもいいんだぞ。

木下 はあ？

刑事1 そうすりゃあ、あんただけ、罪を免除してやることだってできるんだけどなあ

木下 そんな……やってもないこと、考えてもいないことを認めるわけにはいきません！

刑事1 そんな意地張っていると、あとで後悔するぞ。今認めれば、今日中にでも釈放してやることのできるんだけどなあ……このまま否認続けると、いつここ出られるのかねえ。

木下 そんな……私は何も悪いことなんかしてません。それなのに、それなのに、どうして……。

刑事1 お母さん、病気がちなんだろ？ 他に身寄りもなくて、誰が看病するんだろうねえ。

木下 お願いします！ 出して下さい。私はテロリストなんかじゃないんです。

刑事1 だったら認めろ！ 自分のやろうとした罪を認めるんだ！

木下 ですから、ホント、全く身に覚えはないんです。

刑事1 覚えあるだろ！

木下 ありません！

刑事1 あるんだ！

木下 ありません！

刑事1 一般人じゃない！

木下 一般人です！

刑事1 一般人じゃない！

木下 一般人です！

刑事1 一般人じゃない！

木下 一般人です！

刑事1 これは何だ！？ (猿とかチンパンジーとかのモノマ

ネ)

木下 ……チンパンジーです。

刑事1 ゴリラだよ！

木下 もういやあ……。

刑事1 ふざけやがって！ そういう態度に出るなら、もう一

つ、あんた個人が犯した重大な罪について話してみようか。

木下 私個人の？

刑事1 ああ。

木下 重大な罪？

刑事1 LINEの通信記録、見させてもらったよ。

木下 ？

刑事1 コウキ君だっけ？

木下 ！

刑事1 中学二年生、十四歳だっけ？

木下 えっ！

刑事1 そんな少年と、何の目的でホテルになんて入ったのか

ねえ。

木下 ……なんなんですか、それは……。

刑事1 そういう趣味があるらしいじゃないか。シヨタコンッ

ていうのか？

木下 違います、それは、彼が、具合が悪くなったから、それで。

刑事1 具合が悪くなると、ホテルに連れ込むのか。十四歳の

チューボー(中坊)を。チューボーですよ！ チューボー！

……チューボーですよ！

木下 それは……、入っただけで、何もやましいことはしてま

せん！

刑事1 いけしやあしやあと……。

木下 そんな、何もなかったんです。無理矢理誘ってきたのは

あの子なんですから。

刑事1 へえ……念のため、あんたがクラウド上に保存して

る秘密の動画フォルダも調べさせてもらったよ。

木下 えっ！？

刑事1 決定的な証拠だねえ……。

木下 なんて？ どうやって？

刑事1 もうこの件に関してはねえ、逃げられないよ、先生。

木下 ……。

刑事1 マスコミはどう報じるかねえ。淫乱女家庭科教師。夜

の調理実習、とかね。アハハハ……。

木下 ……。

刑事1 あんた、地位も職も失って、終わるよ、人生。お母さん、女手一つであんたのこと育ててきたんだろう。お母さんのこと、泣かせちゃ可愛そうだよ。

木下 お願いです！ そのことだけは！ それだけは！

刑事1 ほほう……これだけは明かされたくない……。

木下 お願いします。それ以外のことなら、何でも、罪を被ります。ですから、そのことだけは……どうか……お願いします！

刑事1 しょうがねえなあ……じゃあ、先生、例の森掛学園職員室占拠監禁計画について、片っ端から話してもらおうか。

木下 ……。

第十一場

同じく警察署の取調室(別室)。
机を挟んで刑事2と雨宮が向かい合って座っている。

刑事2 雨宮さんさあ、もう一度聞くけど、あなた本当にこの件については関わっていないと……。

雨宮 はい。まったく身に覚えはありません。

刑事2 だけどさあ、あなた、このLINEグループの中で、「了解です」って返信返してんじゃない。これ、合意したってことなんじゃないの？

雨宮 確かに、そう返信はしました。だけど、それが、その監禁の隠語だなんて、私はまったく知らなかったんです。

刑事2 知らなかったじゃ、済まされないんだよ。これ、客観的な証拠だよ。あんた、逃げらんないよ。

雨宮 そんな……私は、まったく無関係なんです。ただ、会合に参加したり、プラカード作ったりしただけで、そんな、共謀なんてしてません。お願いします。信じて下さい。

刑事1が入って来て、刑事2に耳打ちする。
それを聞いた刑事2の顔色が変わる。

刑事2 雨宮さん、残念なお知らせだがねえ……木下先生、自供したってよ。

雨宮 えっ？

刑事2 あなたとか、それから他のメンバーも、その計画について合意したって。

雨宮 はい？

刑事2 その合意した計画に基づいて、木下先生は包丁を家か

ら持参したと。実行の準備をしたと。

雨宮 えっ？ 木下さんがそう言ったんですか？

刑事2 そうだよ。

雨宮 木下さんが、自分からそう言ったんですか？

刑事1 (机を叩いて) そうだって言ってるだろ！

刑事2 (刑事1を制止して) まあまあまあ……。

雨宮 ちょっと待ってください。何かの間違いです。

刑事2 そういうわけで、今から逮捕状請求しますから。

雨宮 はっ？

刑事2 組織犯罪処罰法違反。素直に認めた方が身のためだよ。

刑事2、去る。

雨宮 (立ち上がり) ちょっと、待ってください！ 待つて下

さい！

刑事1 (雨宮を制止し) おとなしく座ってる！

雨宮、イスに座らせられる。

刑事1 こっからは任意の事情聴取なんかじゃねえからな。犯

罪者の取り調べだ！

雨宮 そ、そんな……私は犯罪者じゃありません！ 何も悪い

ことなんかしてません！

刑事1 実際にしてなくても、しようとした！ それに合意した。それはもう、犯罪なんだよ。

雨宮 そんな……私は……私はやってません！

刑事1 アハハハ……。

第十二場

園田の証言。

刑事と雨宮は去る。

園田 こうして、モリカケ学園中等部職員室占拠監禁未遂事件は、モリカケ中の教師六名、チューボーくらぶのメンバー三名、計九名の逮捕者を出す事態となりました。しかし、決定的な証拠がなかったため、結局、九名とも不起訴となり、そのまま全員釈放されることとなりました。

二十日以上に及ぶ長期間の拘留で、何人かの先生は精神的に大きなダメージを受け、体調を崩し、休職・退職を余儀なくされたそうです。

警察の強引な捜査は、一部から批判を浴びましたが、捜査

は適正に行われたと、警察はそう繰り返すばかりで、その妥当性が問われることはほとんどありませんでした。

園田は去る。

入れ替わりで徳永が出てくる。

徳永の証言。

徳永 結局、私もその監禁未遂事件で再逮捕され、当然まったく身に覚えはないので否認を貫いたところ、警察が握っていた私の浮気の証拠をカミさんにバラされて、散々な目に遭いました。離婚とか、そこまで至らなかったのはせめてもの救いでしたが……まあ自業自得ではありましたが……。

まあ、そんなこんなで、この騒動から数ヶ月が経ち、ようやく平穏を取り戻した私たちでしたが、この一件で、地域センターは出入り禁止となり、チューボーくらぶはそのまま空中分解となっていました。

そんなある日、桃山さんの呼びかけで、久々に銀座辺りでお食事会をしようということになり、私たちは再び顔を合わせる事になりました。待ち合わせ場所は有楽町の駅前でした。

第十三場

有楽町駅前。

徳永が待っている。

雨宮がやって来る。

雨宮 徳永さん！

徳永 ああーどうもどうも……。

雨宮 お久しぶり。

徳永 いやーご無沙汰してます。

雨宮 お元気でした？

徳永 ええ、元気です元氣です。

雨宮 なんか、元に戻られましたね。体型。

徳永 あっ、そうですか。

雨宮 ほら、ねえ、あの時はすっごいげっそりされて……。

徳永 ああー……まあ、あの時と比べればね。

雨宮 お料理も作られています？

徳永 ええ、あの、ありがとうございます。いろいろ裏技送っ

ていたらいちゃって……。

雨宮 いえいえ。

徳永 すごい活用させていただいてますので。

雨宮 あらそう、良かった。

桃山がやって来る。

桃山 こんにちは。

二人 あつ、桃山さん、お久しぶり！

桃山 お元気でしたか？

雨宮・徳永 ええ。

雨宮 桃山さんもお変わりないみたいで。

桃山 ええ、おかげさまで。

雨宮 相変わらず、海外行かれてるんですか？

桃山 あつ、そうそう(カバンの中から箱を取り出し)……これ、一昨日までロンドンに行ってましてね。バッキンガム宮殿のバッキンガムっていうすごい有名なクッキーなんで、よろしければ……。

徳永 あつ、ありがとうございます。

雨宮 いただきます。

徳永 あつ！ すみません、私、おみやげ……。

雨宮・桃山 ああー……。

徳永 パリの……うっかりしてまして……。

桃山 いえいえいえ……そんな気になさらないで。

雨宮 そうですよ、お仕事で行かれたわけですし。

徳永 いやあの、今日お会いできるって分かってたんで、買ってはいたんですけどね、家に忘れてきてしまいました……ちよつと取りに行つて来ていいですか……。

雨宮・桃山 いやいや……いいですいいです。

徳永 いいですか？

雨宮 全然、気になさらないで。

桃山 そうですよ。お気持ちだけで充分ですよ。

雨宮 また次の機会に、ねっ。

徳永 ホント、すみません。

雨宮・桃山 いえいえ。

園田がやって来る。

園田 あ、遅くなりました。

一同 あつ、園田さん！

園田 すみません。

雨宮 ご無沙汰してます。

園田 お久しぶりです。

桃山 あら、ちよつと痩せました？

徳永 あつ、確かに。

園田 そうですか？

雨宮 ええ。大丈夫ですか？ ちゃんと食べてます？

園田 ああー……いやあの……実は先月旦那と別れました。

一同 えっ、そうなの？

園田 それで家出したもので、バタバタしてまして……。

一同 ええー……。

桃山 えっ？ 今どちらに？

園田 あっ、実家に戻りまして。八王子の。

桃山 八王子……ちよつと遠いわねえ。

雨宮 あれ？ お子様は？

園田 旦那の方に……。

一同 ええー……。

園田 私に原因があったもので……。

一同 ああー……。

園田 すみません。なんか、ご報告が遅れまして。

一同 いえいえ……。

桃山 夫婦仲良くって、息子さんと一緒に誦読してらしたのにねえ。

徳永 まあ……そんなこともありますよね。

雨宮 うん。今日は、何でも話聞きますから、ねっ、楽しみま

しよう。

徳永 そうですよ、まあ、残念会ということ……。ねっ。

一同 ……。

徳永 そろそろ時間ですね？

桃山 あら？ あと、木下さんですよ？

雨宮 まだいらしてませんよね。

桃山 連絡とかってないんですか？

雨宮 いやー特には……。

徳永 ないですねえ。

園田 そうですねえ。

雨宮 まあ、もう少し待ってみますか。

一同 そうですね。そうですね。

桃山 あっ、そうそう(カバンの中から箱を取り出し)……これ、一昨日までロンドンに行ってましてね。バッキンガム宮殿のバッキンガムっていうすごい有名なクッキーなんで、よろしければ……。

園田 あっ、ありがとうございます。

雨宮 あっ、そうそう……(カバンの中からアクセサリを取
りだし)私、最近、ネットショップ始めましてね。こういう
手作りのアクセサリとか、そういうの扱ってまして、これ、

サンプルなんで、よろしければ……。

一同 ああー。

徳永 あつ、そうそう……。(カバンの中から本を取りだし)最近、うちのカミさんが本出しましてね。『長いモノへの正しい巻かれ方』っていう……ビジネス本なんですけど、これ良ければ……。

一同 ああー。いいんですか？

徳永 ええ、ええ。家にまだ百冊くらいあるもので……。

桃山 へえー……でも今日は脱原発とか、九条とかじゃないんですね。

雨宮・徳永 ああ、まあ……。

園田 あつ、あのー、雨宮さんにいただいた九条ホルダー、付けさせてもらってます。

雨宮 ああー……。

桃山 あつ、そう言えば、雨宮さんは付けてらっしゃらない……？

雨宮 ……すみません。

桃山 それネットショップで売ったらいいんじゃないですか？九条ホルダー。ねえ。

雨宮 ああー……まあ、あまり大っぴらにやりますと……。(徳

永に)ねえ……。

徳永 ああ、そうですねえ。

雨宮 また告発されたら大変ですし、どんなことで捕まるか、分かりませんからねえ。

桃山 ああー……そう言えば、九条Tシャツも着てらっしゃいませんものねえ、いつもの。お付度(洗濯?)されてるとか？

一同 ああー……。

桃山 なんだか、ちよつと調子狂っちゃいますねー。フッフ……。

園田 あつ、なんか、すみません。

雨宮 いえいえ……。

徳永 あつ、木下さんじゃないですか？

木下、やって来る。

一同 ああー、木下さん！

木下 すみません、遅くなりまして……。

一同 お久しぶりです！ ご無沙汰してます。

桃山 もう、心配しましたよ。

木下 ホントすみません。

桃山 また逮捕されたのかと思いましたよ。

一同 ……。

桃山 冗談ですよ、冗談。

雨宮 そう言えば、あの時以来ですよね。お元気でした？

木下 すみません。ちょっと体調崩していたもので、きちんと

御挨拶できずにいまして…：雨宮さんと徳永さんにはものす

ごいご迷惑をおかけしてしまつて…：ホント、すみませんで

した！

徳永 いやいやいや…。

雨宮 もう済んだことじゃないですか。

徳永 そうですよ。気にしないで下さい。

雨宮 誰だつて、あんな風に脅されたら、ありもしないことし

やべつてしまいますよ。木下さんが悪いわけじゃないですよ。

木下 ホント、すみませんでした。

雨宮 ほら、顔上げて下さいよ。

桃山 そうよそうよ、こんな待ち合わせスポットで、ほら、み

んな見てるわよ。

木下 あつ、すみません…。

徳永 まあね、今日はイヤなこと全部忘れて、パーツと食べて

飲んで楽しみましょう！

一同 そうですね、そうですね。

大きな爆発音がする。

一同 ええっ！

桃山 何？ 爆発？

園田 なんか、煙、上がってませんか？

一同 ああ！

雨宮 どこかしら？

徳永 あれ、有楽町マリオンじゃないですか？

一同 ええ…。

木下 ああ、確かにそのあたりみたいですね？

桃山 まさか、テロ？

一同 ええっ！

桃山 ちょっと、行ってみましょうよ。(現場へ向かう)

一同 (口々に) えっ！ ちょっと、桃山さん？ 危ないです

よ！

一同、去る。

第十四場

刑事が出てくる。

刑事 休日の白昼に起こった有楽町マリオンの爆発は、死者七名、重軽傷者少なくとも四十八名の大惨事となりました。その後の捜査で、実行犯として四十代の男が逮捕され、案の定、これが爆弾による無差別テロであることが分かりました。彼は、特定の犯罪組織に属していたというわけではありません。イスラム過激派に触発された単独犯。ローンウルフテロってやつでした。当然、我々警察はまったくのノーマークでした。テロ等準備罪、それがあっても、肝心のテロは、防ぎようが、ありませんでした。

暗転。

了。

劇団チャリT企画『キョーボーですよ!』上演台本

2017年6月9日初版発行 2017年7月18日新装版発行
作／檜原 拓 (cahri-T)

この台本を上演される場合は、下記までご連絡下さい。

劇団チャリT企画

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-1-5 菊栄ビル402

TEL : 070-6450-4167

contact@chari-t.com